

プログラムシート

会社名	特定非営利活動法人 日本ファンドレイジング協会
プログラム名	社会に貢献するワークショップ 「寄付の教室：模擬紙幣を使って自身で考え、寄付先を選ぶ」
対象生徒	小学校高学年～高校生（小学４年生以上推奨） ※特別支援学校での御活用の場合には、御相談ください。
プログラムの 所要時間 実施場面	５０分×（１）コマ授業
プログラムのねらい	
○社会貢献について国際社会でも通用する柔軟で幅広い考え方を鍛える ○なぜ、社会に貢献することが必要かを、生徒同士の対話を通じて深める ○社会と自分の関係性を具体的に考え自分のできる事に気づく	
プログラムの内容	
○実施形態 教室で実施する場合は、メインファシリテーター１名、サブファシリテーターの人数のクラス分で実施します。オンラインの場合は接触を伴わない形で、ファシリテーターがデバイスを通じて遠隔で進めます。 ○概要 人間と社会の「支え合う社会」について考える際に、自助・共助・公助の枠組みも活用し、ボランティアのみならずそれぞれの価値観と特性に基づいた社会に貢献できることを学びます。 ○プログラムの流れ 社会貢献に関するクイズから始まり、いま参加できる最新の社会貢献を伝え、生徒各人のこれまでの経験を振り返り自分が経験してきた社会に貢献したこと（寄付、ボランティア、誰かの役に立った）を棚卸し、発表・共有します。 その際に、「どのような気持ちでしたか」も同時に振り返り共有して、発表を全体で行います。また、参加者の経験を共有した上で、更にいまできる社会貢献の方法や日本の状況をレクチャーし、参加者に社会貢献のイメージとなぜそう思ったかを振り返り自分なりの考えを持つように促していきます。 ※プログラム実施に際し、テレビ・新聞等の取材が入る場合がありますことをご了承ください。なお、取材可の学校での実施を優先させていただく場合がございます。	
学校側へご提供いただけるもの	
ワークショップでの配布資料数点	
学校側に整えてもらいたい設備・環境	

【実施する際に必要な設備・備品】 プロジェクター、スクリーン（可動式・固定式）、ホワイトボード、黒板、マイク・スピーカー（音響設備）、机				
学校側への依頼事項				
・グループワーク等への理解と協力				
企業のW I N				
・団体の取組み・理念への理解・教育への支援・社会貢献活動をP R				
学校のW I N				
・生徒は課題解決を通じて、思考力・判断力・表現力等を高めることができる。 模擬紙幣を使った寄付体験をすることで、選択的な寄付や主体的な社会貢献意欲を高めることができる。				
学校負担費用		応相談(交通費実費)		
連絡先	部署名	社会貢献教育担当		
	担当者	小川まき	W E B	http://ifra.jp/ltg/
	電 話	03-6809-2590	e-mail	ltg@ifra.jp